

# 7月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比DI値の動き

令和4年7月のDI値は8指標中、「販売価格」「取引条件」の2指標が上昇し、「景況」「売上高」「収益状況」「資金繰り」「設備操業度」「雇用人員」の6指標が下落となった。

## 2. 県内中小企業の景況の現状

エネルギーや原材料の価格高騰、物価上昇による企業や家計への影響、供給面での制約等により、多くの事業者が苦慮している。収束の見えない新型コロナウイルスにより、感染者や濃厚接触者となり自宅待機となる従業員が増え、事業への影響を最小限に抑える取り組みが必要となっているとの報告もあった。また、世界的な金融引き締め等を背景とした海外景気の下振れが、景気を下押しするリスクとなっている。

このような厳しい状況であるが、7月は3年ぶりとなる阿波踊りが最大規模での開催が決定し、鳴門市では納涼市が開催された。また「企業活動の再開に向けた動きが活発化している」「ゆっくりだが景気回復の方向に向かっている」などの明るい報告が寄せられた。

景気は緩やかに持ち直しており、経済社会活動の正常化が進む中で、今後感染対策に万全を期し、各種政策の効果が行き渡り、景気をさらに持ち直していくことが期待される。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

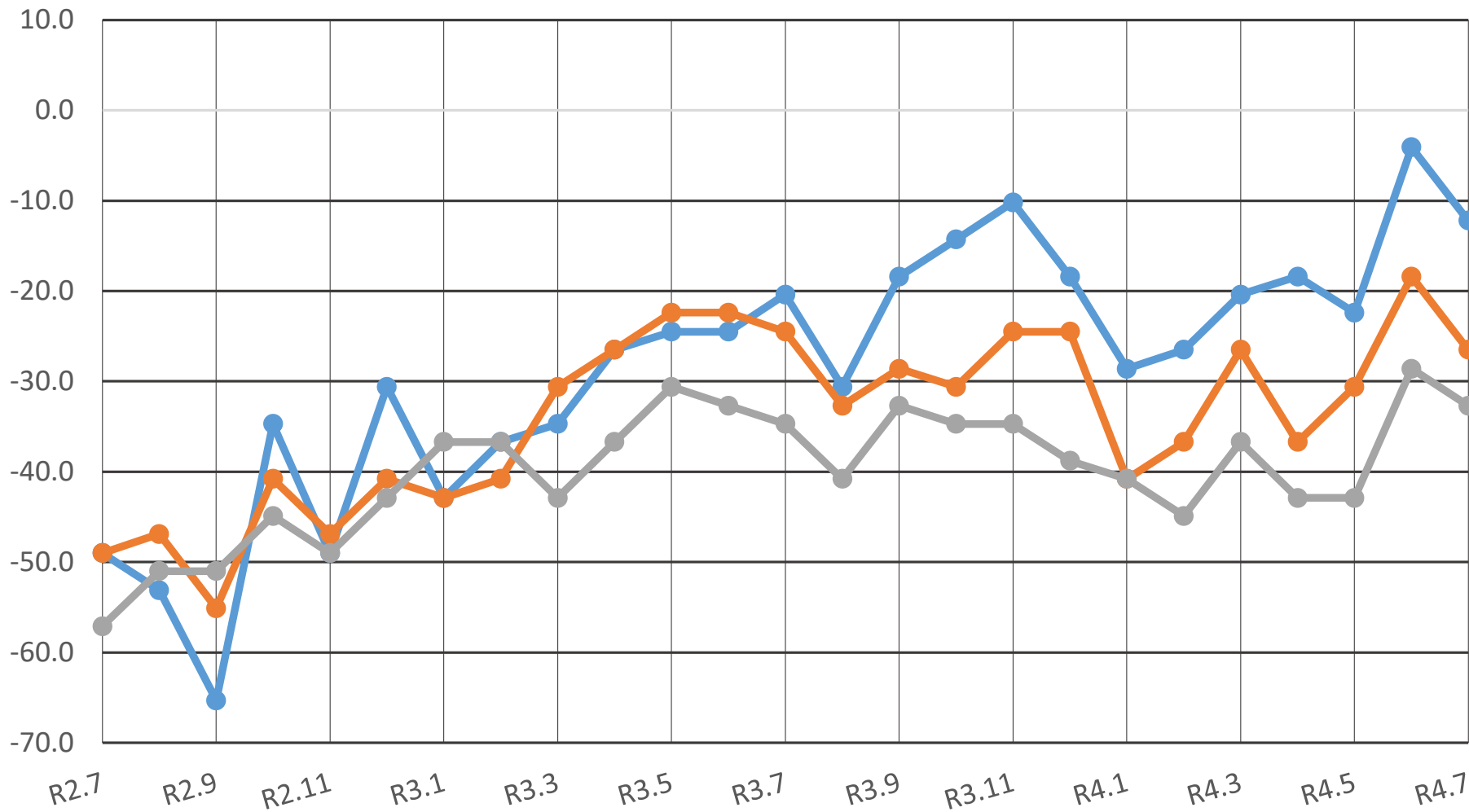
	R3 7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	前月比 増減
景況	-34.7	-40.8	-32.7	-34.7	-34.7	-38.8	-40.8	-44.9	-36.7	-42.9	-42.9	-28.6	-32.7	-4.1
売上高	-20.4	-30.6	-18.4	-14.3	-10.2	-18.4	-28.6	-26.5	-20.4	-18.4	-22.4	-4.1	-12.2	-8.1
収益状況	-24.5	-32.7	-28.6	-30.6	-24.5	-24.5	-40.8	-36.7	-26.5	-36.7	-30.6	-18.4	-26.5	-8.1
販売価格	18.4	12.2	18.4	12.2	14.3	18.4	22.4	16.3	18.5	18.4	16.3	18.4	32.7	14.3
取引条件	-12.2	-16.3	-14.3	-6.1	-8.2	-8.2	-16.3	-24.5	-16.3	-12.2	-16.3	-12.2	-10.2	2.0
資金繰り	-16.3	-14.3	-10.2	-12.2	-16.3	-16.3	-16.3	-20.4	-20.4	-16.3	-14.3	-6.1	-12.2	-6.1
設備操業度	-4.1	-10.2	-6.1	-4.1	2.0	-2.0	-4.1	-10.2	-8.2	-6.1	-6.1	-6.1	-8.2	-2.1
雇用人員	-10.2	-8.2	-8.2	2.0	-10.2	-2.0	-10.2	-10.2	-12.2	-6.1	-8.2	-10.2	-8.2	-2.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

徳島県中小企業団体中央会

# 前年同月比DIの推移

売上高 収益状況 景況



## [景況関連の報告]

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味 噌・今年前半の味噌の出荷量は昨年前半に比べて95.5%であり4.5%の落ち込みであったが、昨年度の後半はコロナの収束もあり前半に比べ108%出荷量が増加した。今年は現在コロナの新型が猛威を振るっており、また製造コストが急速に増大し、厳しい後半となりそうである。
2. 漬 物・漬物製造業者では前年に比べ販売が上向きになってきている漬物業・農家ともに労働力の不足に悩んでいる。技能実習生の入国が再開しているものの、引き続き人員確保が出来ていない状況である。円安の影響により、外国人材の募集はさらに厳しくなった。

#### <繊維・同製品>

3. 縫 製・前月とほぼ変わらない景況である。自動化による生産効率向上がまだ整っていない中、労働力不足は相変わらず続く模様。設備等の生産体制を中長期的に再構築を進めるなか、コンサル等によるテコ入れを継続中である。生産面は、下期に向けて備蓄生産が加速する。値上げは、生産関係の原材料費他は、ほぼ全取引において値上げとなり、一般管理費にも広がってきている。為替による生産の影響も大きい。

#### <木材・木製品>

4. 製 材・製品市場の木材の動きが悪いせいか、先月に引き続き注文は減ってきている。時期のせいもあるが原木市場への原木入荷が少なく、仕入れは依然難しい状態が続いている。備品や建築資材、光熱費、燃料代の値上がりなどで経営面で不安だという声が多い。
5. 木 材・木材素材生産不足による素材高騰の影響、それに伴う木材製材品の不足と価格の高騰が現在も続いている。

#### <印 刷>

6. 印 刷・7月は定期的な行事が少ない閑散月になる。今年の8月は阿波踊りが3年ぶりに最大規模で再開される。経済活動を活発にするための大きなチャレンジととらえている。ここ最近はいろいろなイベントも感染予防をしつつ開催する事が許される雰囲気になりつつある。一方コロナ新規感染世界最多などのニュースも聞こえている。無謀な挑戦とならない様、期待しつつ注視していく必要がある。

7. 印 刷・昨年7月に比べると売上高減少、収益状況悪化の組合員が多かった。用紙、インキ、PS版副資材の値上がりを価格に転嫁できなかった組員もいる中でのコロナ感染者の莫大な増加に頭を悩ます日々である。救いは阿波踊りが3年振りに開催されるというニュースだ。イベントを開催しようとするマインドが上がって欲しいものだ。

<窯業・土石製品>

8. 生 コ ン・7月の出荷量は昨年同月と比べて約14%増加した。あまり雨も降らず梅雨も明けたこともあり、出荷は順調だったようだ。官工事は発注物件が少ない時期で以降の発注工事に期待したい。また全国的な生コンの原材料価格の値上げにより、セメントや骨材、混和剤等の高騰で当組合は4月から生コン価格を値上げしていたが、徳島県土木工事設計材料単価が7月より見直され、以前にないスピードの対応で各関係者や行政担当者等のご理解とご協力に感謝したい。

9. 生 コ ン・7月の出荷数量は、対前年同月比10%減であった。要因としては官民とも大型工事受注減による。収益状況については、原材料であるセメント価格の引き上げに伴い、7月より生コン価格引き上げを行ったが、更に大手セメントメーカー各社がセメント価格に石炭相場反映導入など打ち出されており、更なる原材料の引き上げにより生コン業界の経営環境が厳しい状況に変わりない。

<鉄鋼・金属>

10. 鉄 鋼・受注量はあるものの部品調達等に時間を要するため、納品するまでの期間が長くなり、稼働率が低下し経営も厳しい状況が続いている。

11. ス テ ン レ ス・引き続き、材料価格の高騰、電気部品・装置部品の長納期化、原油高は継続している。加えて円安状態も長期安定化の方向にあって、先行きの不透明な状態が継続している。国内外ともに企業活動再開に向けた動きが活発化しており、対応を進めている状況ではあるが、社員のコロナウイルスへの感染及び濃厚接触による待機も増えており、事業への影響を最小限に抑える取り組みを継続実施している。

<一般機器>

12. 機 械 金 属・依然として、新型コロナウイルス、ウクライナ情勢等の影響により、営業活動の停滞、部品の調達難、原油・原材料価格の高騰等から、売上高や引合いなどに厳しい状況が見られ、一部に景況感の持ち直しの動きも見られる一方、引き続き、先行きが見通せない不透明な経営環境が懸念される。また、需要の停滞をはじめ、円安による小売価格の高騰、従業員の確保難なども、引き続き、経営上困難な課題として見受けられる。

## 【非製造業】

### <小売業>

13. ショッピングセンター・7月の前年対比は売上95.8%、客数94.3%でした。業種別には、食料品と住居関連が同じく97.9%、身の回り品94.7%でしたが、衣料品が悪く90.0%と不調でした。徳島県において7月にコロナに感染した人は11,343人で、徳島県累計36,394人の31.2%です。人口(72.86万人)でいうと、20人に1人はコロナに感染したことになります。我々小売業は、コロナ感染者が増加すれば外出頻度が減り、買物に要する時間が短縮され、売上が下がると考えますがいかかでしょうか。逆にこれだけの人が感染すれば、コロナ発生当初のような風評被害もゆるまり「赤信号みんな渡れば怖くない」精神で、逆に外出頻度等が増えるかも知れません。
14. 各種商品小売業・前年昨対比は売上も客数もまだまだ厳しい数字だが、業種によってよっては回復が見られるものもある。
15. 畳小売業・材料価格がこの1年間で、25%以上高騰している。転嫁せずにはやっていけない。一般家庭の畳表替えが増えてきた。盆前の動きが今年は早めからあるのは、梅雨が早くあけたからか。コロナは増加傾向だが、人の動きは戻ってきている。メーカーからこの1年で3回目の値上げの連絡があった。
16. 電気機器・商品等仕入れ価格の上昇により収益を圧迫。

### <商店街>

17. 徳島市・7月末に後継者がいない為、1店舗廃業した。
18. 徳島市・セールスの盛り上がりもあまり見られず、相変わらず厳しい状況が続いています。
19. 鳴門市・3年ぶりに納涼市が開催されました。

### <サービス業>

20. 広告業・材料の高騰が続いているた為、毎月の仕入れ単価が上がっている。販売価格を上げると受注が取れないため、反映することが難しい。見積依頼や受注は増えてきており、機械稼働率も上がってはいるが、前述のことから景況はあまり良くはない。
21. 土木建築業・前月同様、人員増加により人件費がわずかに上昇。コロナ対応、対策のため、テレワーク・リモート設備等に投資し充実させ、1室借増したことで事務所経費が増加。
22. 自動車整備業・登録車・軽自動車共に新車・中古車すべてが前年度割れとなり、トータルでは対前年度比16.9%減となった。全国的に見ると減少幅は6月より改善しているようだが、徳島県は前月よりも減少が大きい。

23. ビル管理・近年の最低賃金の急激な増額改定、原材料費の値上げ等が相まって厳しい経営環境が予想され、これらに対応するべき事業活動に当たる必要があります。特に最低賃金の引上げによる経営圧迫については、契約先に理解を求める活動を粘り強く行っているところです。「新型コロナウイルス感染症」の第7波の影響を受け徳島市内飲食店では県内客は減少、県外客は増加の傾向にあるとのこと。この関係で、ホテルの客室稼働は高い状態を維持しています。また、コロナ対応に特化しているホテルは、陽性患者の増加により受入期間の延長がさらに長引くと思われ。ホテル関係メンテナンス業者は、従来からコロナ期間においては繁閑柔軟な対応を余儀なくされてきており、現時点では従業員の補填活動が大きな経営課題となっています。また、病院や高齢者利用施設等においては、管理者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行しているところです。

24. 旅行業・新型コロナウイルス感染症第7波により、団体旅行のツアーの延期や中止がたくさん出た。また、個人の売り上げは鈍化傾向のままである。燃料代等の値上げも経営に影響が出ている。

#### <建設業>

25. 建設業・変わらず資材が高値となっている。発注工事が少なく、技術者が余っている企業が出ている。

26. 板金工事業・ゆっくりだが景気回復の方向に向かっている。

27. 鉄骨・鉄筋工事業・県内の仕事量が不足している。

28. 電気工事業・新設住宅口数は157件で、昨年同月比111%となった。

#### <運輸業>

29. 貨物運送業・経営改善の施策として、大型トラックの保有量を縮小して、中型への移行を実行した会社あり。軽油単価は国の助成金で前月比6円弱の値下がりを見た。運賃改定を申し込むも、なかなか応じてもらえない状況が続いている。

30. 貨物運送業・燃料高によるコスト増が事業者を圧迫している。軽油価格に政府の激変緩和措置が反映されていてもトラック事業者の負担は依然重く、9月末までとされる激変緩和措置の期限延長を求める声が多い。